

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193100217		
法人名	株式会社かみのくら		
事業所名	桜ヶ丘グループホーム (1F)		
所在地	可児市桜ヶ丘6-73-11		
自己評価作成日	令和6年12月21日	評価結果市町村受理日	令和7年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2193100217-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2193100217-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和7年1月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「老いても個人として尊重され、自分らしく生きることを大切にしましょう」という運営理念を職員全員が大切に、利用者様には毎日ゆったりとした時間を過ごして頂いております。また春には向かいの道路には桜が満開になり、風景を散歩したり、東屋に出て楽しんだりして頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者と職員は、常に利用者に寄り添う支援に努めているが、運営体制が変わってからは、職員数が減少している為、外出支援や地域交流等が停滞しており、職員も色々と葛藤しながらケアを行なっている。経営陣は、職員の人手不足についての不満を承知しているが、職員配置基準は満たしており、今の運営体制で利用者へのサービスが低下することないよう、職員研修を充実させながら介護の質の向上に取り組んでいる。人手不足の中でも、3か月毎であった家族向け通信を毎月発行とし、家族との信頼を損ねることがないように努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(1F)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに理念を掲示している 個人として尊重され自分らしく生きることを大切にできるよう取り組んでいる	理念は玄関、職員休憩室に掲示している。以前は朝礼等で理念を唱和し、日々の支援の振り返りを行っていたが、現在は人手不足でもあり、時間の余裕がなく、職員各自で理念を確認している。	理念は支援の柱であり、職員間で共有する場は必要である。共有方法の工夫に期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議が対面で行われ施設を知っていただく機会として活用している 以前は近隣の保育園 小学校との交流を行っていた 傾聴ボランティア デイに来た歌謡ボランティアに参加している	以前は地域の保育園や小学校との交流する機会を設けていたが、今は途絶えている。振興住宅の中にある事業所であるが、地域との関わりが希薄であり、運営推進会議のメンバーとつながっている程度の状況にある。傾聴ボランティアの訪問が、唯一地域の人との関わりとなっている。	事業所は地域密着型サービスの一つであり、利用者が地域とつながりを持つことが支援に必要な要素でもある。理念に地域との関係を盛り込み、地域とのつながりとなる取り組みに期待したい。
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況の報告 ヒヤリハット事故報告 グループホームとは などお話ししている	運営推進会議は隔月に開催し、行政、利用者、家族、民生委員等が参加している。事業所の人手不足により、なかなか外出支援が出来ない課題を報告している。ヒヤリハットや事故報告についての原因や、今後の運営についても意見交換を行っている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議 事故報告 集団指導時に関わっている	運営推進会議に行政担当者の参加を得て、介護保険制度の動向について報告を受けている。事業所の状況を報告し、課題点を相談しながら協力関係を築いている。行政主催の会議や研修に参加し、利用者サービスの向上につなげている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループ内法人代表が研修を行っている 毎月の施設会議で身体拘束を行わない対応について話しをいている	身体拘束廃止委員会を定期的に開催し、各ユニット職員間で拘束の弊害について学んでいる。利用者の安全面を考慮し、施錠を行っている状況であるが、今後の検討課題としている。現在、拘束を必要とする利用者はいない。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議の場、申し送りじ情報を共有している 不適切ケアガイドラインをグループ内法人で決めて共有し不適切ケアに該当する場合を学ぶ	不適切ケアについては、法人で新たに設けたガイドラインに沿って、職員会議で虐待防止法を学び、適切な支援に努めている。言葉による虐待についても、具体例で学び、ヒヤリハット報告をするとしている。また、利用者の身体に異状が無いかを常に確認、虐待を見逃さないよう努めている。	

岐阜県 桜が丘グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	虐待防止研修の中で触れられる 運用には実際に関わらないと身につかない		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	法人代表が契約書の内容 重要事項説明書の内容を説明し、管理者も内容について補足している		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの要望は居室担当の職員が必要物品をお願いする時に聞き取りしている 来訪時管理者が対応しお話ししている 苦情や意見は経営層に文書で報告している	「さくら通信」を、3か月毎の発行から、毎月発行を実現させ、利用者の暮らしぶりを報告している。居室担当者が、家族に連絡する際に意見や要望を聞き、来訪時には管理者が家族の話の聞いている。苦情や意見は上層部に報告している。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設会議で話された内容は議事録に記載され代表者が見ることができる仕組みになっている	職員会議での意見や希望を議事録に記載し、代表が確認する体制になっている。現在、事業所としての人員配置基準は満たしているが、職員は、ケアや作業に慣れない外国籍職員をサポートしながら、利用者支援を行っており、家族からも不安の声があがっている。	現場の意見と運営側の視点の相違からくる課題点が多いと思われる。利用者への支援体制の低下について、代表、管理者、職員が現状を話し合うことが重要であり、家族からの信頼を損ねることのない運営が望まれる。
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	医療法人だった名残があり営利法人の運営方法に反発する職員もいる ご利用者の為の施設であるのでまず接し方から確認したい	運営母体が医療法人から営利法人に変わり、職員は以前の就労環境との違いに戸惑っている。人手不足で余裕がない職場環境の改善を求めている。運営側は、利用者のために、どのような環境が望ましいかを模索している。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ内法人主催で年間を通し8コマの研修課程があり全員がすべてのコマを受講すべき体制としている	法人主催の研修受講が義務化され、全職員が年間8コマの研修を受講し、専門職として知識と技量を高めている。外国籍職員が複数在籍しており、職員が指導にあたり、育成に努めている。	外国籍職員の言葉の壁や、記録作業等へのサポートが必要な状況であり、職員が日常業務を行いながらのサポートが負担になっている。業務の効率化を図れるよう、職員間で話し合い、分かりやすいマニュアル作りに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループ内法人他施設と研修の際に意見交換を行うことがある		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	見極めが難しいがその人の残存能力低下を防ぎできうことは行っていた		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント、本人への聞き取りを行い本人の意向や思いを職員で共有し要望や気持ちに応える 推し量り提案し実行する	職員は、個別支援の際にコミュニケーションを図りながら、思いや意向を把握している。把握が困難な場合は、家族に聞いている。新たに知り得た情報は職員間で共有し、実現に向けて取り組んでいる。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族からの意見や要望は保守的になりがちなのでこちらから提案しより良く暮らすために出来ることを計画に入れている	管理者は、家族の訪問時に意見や希望を聞いている。担当職員の意見、日常の介護記録などを参考に、ケアマネジャーが介護計画を作成している。計画内容が現状に即さない場合は見直しを行っている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	いつもと違う状態の変化に気づけるよう情報共有している	個別記録は、利用者の状態を記録するだけでなく、職員の感じたこと、気づき等を手書きで分かり易く記録している。申し送り時にも口頭で伝え、職員間で共有しながら、介護計画にも反映させている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状態に合わせて理学療法士による訪問リハを受け指導を受けている	家族が専門医への受診同行が困難な場合は、事業所が対応している。また、法人グループの理学療法士による訪問リハビリを受けられるよう支援している。	

岐阜県 桜が丘グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の場から傾聴ボランティアの方が来ていただけるようになった『みんなの家』という社福が関わる喫茶に行っていた会議の場以外からでも地域資源を把握し活用したい		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	クリニックは隣接しているので診察時間は直ぐに指示を仰ぐことができる ご家族とも相談し専門医の受診も柔軟に引き継いでいる	契約時に、かかりつけ医についての説明を行っている。現在は隣接のクリニックが協力医であり、ほとんどの利用者が受診している。専門医を受診する時は家族の同行を基本にしている。現在、協力医や訪問看護について、変更を検討中である。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院に情報提供し退院時の受入基準を伝えている	入退院時の対応は管理者が行っている。家族と連携し、医療機関と情報交換しながら、本人・家族の安心につなげている。治療後は、早期退院に向けて受け入れ体制を整えている。医療機関とは、退院後も連携を図るよう努めている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明はするがその場になってみないと判断がつかない場合が多い ご希望があれば看取りまで行う準備はしている	契約時に重度化や終末期の対応について、家族・利用者に事業所の指針を説明している。状態の変化時は関係者で話し合い、家族が看取りを希望する場合は、指針に沿って支援に取り組んでいる。訪問看護ステーションとの契約もある。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	グループ内法人主催の研修で座学は行っている 実践の訓練は今のところできていない		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議や家族への便りで非常時は参集していただくよう伝えている 避難訓練は火災時想定で年に2回行う 地震後の火災想定、夜間想定での訓練も行っていく	年2回避難訓練を実施している。地震後の火災発生を想定した訓練も行っている。運営推進会議で報告し助言を得ている。次回は家族にも参加を依頼している。BCPを整え、備蓄品の確認と点検を予定している。	前回の課題として、避難訓練を実施する際には、近隣に計画を伝え、参加を呼びかける事や、地域の防災訓練への参加等が課題であった。今回は、地域の協力体制を得られるよう、引き続き課題として取り組まれない。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士でご利用者様への声掛けで不適切にならないよう注意している	利用者一人ひとりの個性を受け止め、意思決定を尊重した支援を心がけている。法人の研修計画で、プライバシー保護について学んでいる。居室への入室、排泄や入浴介助等、利用者の誇りを損なうことのない支援に努め、プライバシーを侵さないよう努めている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択してもらえよう選択肢を絞って提案する ここにいられるだけで満足と言われる方もいるが傾聴し思いを探っている		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	睡眠時間を伸ばしたり延食したり出来る限り希望に沿うよう支援している		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼と夜はメニューが決まっているので 朝食のメニューを何が食べたいか聞き取り対応している お手伝いできる方にもできない方にもお願いはしている	昼食と夕食は隣接の法人で調理したものを事業所で配膳し、利用者の状態に合わせた食事形態にして提供している。朝食は、利用者に関心しながら柔軟なメニューの提供で楽しめるようにしている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量 水分量など記録し記録を読み取り都度対応してる		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が不要な方も歯科の往診や受診で確認いただき 職員も仕上げ磨きなどで対応してる	各自のペースで口腔ケアを行っている。利用者の状態に応じて、職員の見守りや補助を行い、最後は磨けているかを確認し、口腔内の清潔保持に努めている。検討中であった歯科の往診は、家族と相談しながら実施している。	

岐阜県 桜が丘グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意便意のない方ほ誘導の時間を調整しチャレンジしている 時には医療のちからも借りて対応する		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	仲の良い方同士で浴槽につかる事がある シャワー浴のみの方は足だけでもお湯に浸かって頂いている		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自分のペースで食後は横になるなどご自由にいただいている 日中活動し夜気持ちよく眠っていただけるよう支援している		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人の状態を確認し過剰になっていないか足りているかを確認している 変化があれば直ぐに管理者へ報告し管理者から医師に方向している	服薬支援は、担当職員が飲み込みまでを確認し、ヒヤリハットや誤薬を防止している。薬の変更時は利用者の状態を注意深く観察し、異常があれば速やかに管理者に報告している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事は積極的に関わっていただくなど やりがいをもって過ごしていただいている	利用者の生活歴から把握した「楽しみ」や「出来る事」を、生活の張り合いに繋げられるよう、職員が声掛けし継続できるよう支援している。作品作りも行っているが、徐々にテレビを見る時間が多くなっている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	認知症が進行しているがお誘い方によっては外出の意図が伝わり外出することもある ご家族に戸外にお連れ頂くよう提案している	職員の業務負担が多く、外出支援の取り組みをする余裕がなく、外出ができていない。家族からも、身体機能の低下を懸念した外出支援の要望が出ており、家族の理解と協力を得ながら、外出支援を行うことを検討している。	天気の良い日には、テラスや中庭の東屋に出るなど、職員間で役割を決め、先ず外に出る事から始めたい。家族の来訪時には外での面会に協力を得たり、地域のボランティアの協力を得るなど、前回同様、外出支援の取り組みに期待したい。

岐阜県 桜が丘グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使う機会が施設内ではない ご家族と外出された際などで対応していただくこともある		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	月に一度ご家族へ便りを送っているがその中にかける方は本人のコメントを書いていた		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	吐き出し窓から庭が見え木の葉の色が確認できる 風の強さで木がゆれ落葉する様子も見える リビングの端にソファがあり過ごしたい場所で過ごすことができる	共用の空間は広く、車椅子や歩行補助具等の利用者が安心安全に移動できる。大きな窓から季節を味わうことができる。居室には洗面台、トイレ、クローゼットが設置されている。広い居室は清掃の大変さはあるが、清潔な空間保持に努めている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子、廊下の先に腰掛ベンチがありお一人でも複数人でも思い思いに過ごすことができる場所がある 小上がりスペースもある		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具をお持ち込みいただいている マットレスをお好みのものに変えられている方もある		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の扉がすべて同じ外見で特徴がないので表札や張り紙で名前を表示している トイレが共同ではなく居室にあり自宅のように使っていただける		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193100217		
法人名	株式会社かみのくら		
事業所名	桜ヶ丘グループホーム (2F)		
所在地	可児市桜ヶ丘6-73-11		
自己評価作成日	令和6年12月10日	評価結果市町村受理日	令和7年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和7年1月24日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営方針は個別の介護計画を作成し、利用者の立場に立った利用者が必要とする適切なサービスを提供する、サービス内容提供方法については分かりやすく説明する、適切な介護技術を持ってサービスを提供する、常に提供したサービスの質の管理評価を行うといったことです。目的は認知症によって自立した生活が困難になった方々にたいして、安心と尊厳のある生活を守り、その人がその人らしく最期まで快適に暮らせるよう支援することです。
--

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果(2F)

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に理念を掲示している。朝礼時、会議時に目に入るようにし、意識することを習慣づけている。それにより、その人らしい暮らしができるよう取り組むという気持ちをもてる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	傾聴ボランティアの方に月2回来所して頂き、地域交流を深めている。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	以前より多人数になった会議で、取り組み内容や現状について報告し、委員の意見や助言を頂きながらサービスの向上に活かしている。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と連絡を取り現場の実情、利用者様についての相談を伝えるよう努めている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を定期的に行い、身体拘束を行わないケアに日々取り組んでいる。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止研修の義務的参加やマニュアルを活用している。虐待緊急通報フローチャートを掲示し虐待防止に努めている。		

岐阜県 桜ヶ丘グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は成年後見制度や地域権利擁護に関する研修を受け理解を深めている。必要な方について支援をできるように努めている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には書類を基に説明を行い、不明な点がないよう細かく確認しながら契約を行っている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回のアンケートに答えて頂き、要望を反映できるように努めている。「さくら通信」を毎月送付し面会時、電話報告時に意見を頂けるようにしている。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等で意見を吸い上げ、速やかに検討、対応を行っている。事務局の担当者にも相談するなどして運営改善に努めている。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	ホームごとの査定や個人評価を実地し給与に反映している。資格に応じた社内外の研修や取得制度も利用でき、モチベーションを上げるよう努めている。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	リモートによる基礎研修を行い、理解度を示す感想文を書くことで、日々の業務に照らし合わせることができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	閉鎖、独自のにならないように、他施設とのパイプ役となり情報収集、交換を行い、職員へ伝達することで他施設の現状を把握し、ケアサービスの向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自分の出来ることは極力して頂き、出来ない部分を支援できるよう努めている。またできるだけご本人の意向に沿えるよう努めている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が望む生活を送るための支援を把握し、提供することにより、出来るだけ本人の意向に沿えるよう努めている。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員で話し合い、意見交換をしている。また家族との話し合いをして個別の具体的な計画、分かりやすい計画を作成するよう努めている。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送り、記録が主体となっている。職員間で声を掛け合い情報の共有になるように努めている。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の状況変化に対して柔軟に取り組むことができるよう心掛けている。		

岐阜県 桜ヶ丘グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人や家族の意向に沿って支援が行われるように努めている。ボランティアの開始と共に積極的に今後も取り組んでいきたい。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の主治医の訪問診療を受けており、夜間や休日でも速やかな対応が出来るように支援している。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は状態報告とサマリーによる情報提供を行っている。また入院中は定期的に状態確認をし、医療機関、家族と連携し、早期退院を支援している。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	意向については入居時にリスクと施設指針を説明したうえで伺い、状態、意向変化時に再確認し、対応を検討する体制をとっている。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会社内における基礎研修に参加するようにし、各自勉強を行っている。応急手当や初期対応のマニュアルを作成している。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に災害の想定を変え、避難訓練を行っている。避難訓練実施報告書を作成し、問題点、改善点を報告し、次回の訓練につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様への声掛け、会話をていねいに行うようにしている。プライバシーにかかわる話は、人前でしないように心掛けている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を伝えやすくするように、日々のコミュニケーションを深め、信頼関係を築いている。ケアを行う際にはできるだけご本人に決めて頂くようにしている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、自由に好きな事、やりたい事、希望に沿って支援している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きを職員と一緒にいたり、作り方や好みの話をしたりして楽しんでいる。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	身体状況や嚥下状態に合わせ、食事の形態を変え提供している。体重の確認をし、食事量の調整を行っている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを行い、同時に口腔内の観察を行っている。異常に気が付いた時には管理者、家族に連絡を行っている。		

岐阜県 桜ヶ丘グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録に記入し排泄状況とパターンを確認している。記録の情報を基に、時間による声掛けや、雰囲気を感じ取り誘導を行っている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴剤、ゆず湯など変化をつけている。本人の希望によるシャワー浴を実施している。本人の体調により全身清拭を行っている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の季節に合わせた生活習慣や、その時々状況に応じて休息したり、安心して気持ちよく眠れるようにリネン交換を行っている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様ごとの服薬一覧を作成している。薬情をファイル化し、服用している薬がすぐに確認できるようにしている。服用による症状変化がある時は、主治医に相談し指示を仰いでいる。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き、カレンダー日記、塗り絵、DVD体操、リハビリ体操等、月毎の行事を取り入れて楽しみ事の支援をしている。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食、遠出は出来ていないが、近所の散歩、家族様との食事等、外の空気に触れられるよう支援をしている。		

岐阜県 桜ヶ丘グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	レクリエーション費用として、ご家族から預かっている。ご本人の希望に応じての使用手伝いや、ご家族に確認連絡をして、必要なものを持参して頂いている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば、職員が電話をかけて本人と話す機会を設けている。毎月の通信書で状態報告を行っている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内に季節を表す飾りつけをしている。廊下には季節ごとに行う行事の様子の写真等を展示し、心地よさを演出している。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	相性の良い利用者様同士に隣に座って頂き会話を楽しんでもらえるように工夫したり、状況に応じて移動したりと、思い思いに過ごせるように配慮している。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や手作りされたもの、季節を表す飾りつけをし、その人らしく居心地よく暮らせるように工夫している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりできることを生かせるようにベッドの配置や椅子を置き、つかまって歩くことができるように工夫し、安心、安全に過ごせるような環境作りに努めている。		